世阿弥研究会　簡易記録（2019.12．24）＠河村能舞台18:00～20:00

能楽情報（報告）

1. 河村定期研能会（第三回）令和元年12月28日（土）11時半開場・12時半開演

**「頼政」シテ（河村博重）**

「三輪」（河村晴久）

河村晴久氏の当日の口頭解説（簡略に書いています。間違っていたらご指摘ください。木村）

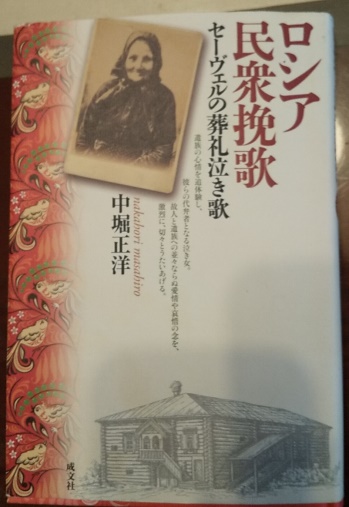
「頼政」は修羅物である。世阿弥の作品には修羅が多い。戦争の愚かさを訴えている。命よりも名を惜しむ武士の在り方を世阿弥は批判していたという。しかし、戦争をすることを職とする足利義満が庇護者であった。作品では最後の最後に一条の光を主人公に与えるように、何か逃げ道を与えるように作られている。江戸時代も修羅物は禁止されなかった。主題を見えないようにした世阿弥に対して禅竹は主題を主題として仕立てたという。「頼政」は宇治川を挟んでの合戦で、法体でありながら戦をしている。「鵺」にも頼政は登場する鵺は平家物語で化け物であり頼政が退治するが、後半では勝者であった頼政が敗者になる。戦は勝者も敗者もただ破壊のみである。現実を否定する人を最近「お花畑」というらしい。世阿弥もフランシスコも「お花畑」ということになる。お金や経済でない「文化」を知っている「お花畑」は大切である。どれだけ「お花畑」が増えるかが、これからの日本の未来にかかっている。

　「三輪」の概要は玄賓僧都のもとに通う女に晩秋に夜寒をしのぐ衣を授ける。自分は三輪に住む者だと告げ、杉の木を目印に訪ねて来てほしいと語る。行ってみると杉の木に衣がかかっており、実は、その女は三輪明神の化身であった。玄賓がその神木の下に行くと三輪明神が現れ感謝を述べる。明神は自ら罪を背負うことで人々を仏道へと導くわが身の行いを明かし、先刻の受衣こそが罪の苦しみを和らげる法の恵であったと明かすと、その礼として天岩戸の神秘を見せ、神道の奥義を玄賓に伝える。

晴久氏は、「のりの力」を賜るために衣をいただきに行ったと語っていた。神にも罪はあり、これからすべての人を救うために「のり」をくださいと。耳で聴いていたのですが「のり」は「法」であると思われる。

　中世では三輪の神と伊勢の神は一体で、三輪の神はアマテラスとして描かれ、最後に光がさして光が満ちてそれが永遠につづく、という祝言で、来年も良い年でありますようにという思いが込められた上演とのことでした。

1. 資料紹介（松久明生さんからロシアの民衆歌の本2冊ご紹介がありました）

**本日の読解（「風曲集」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・世阿弥能楽論集　編訳：小西甚一）**

1. 音曲習道のこと、およそ五音・四声より、呂・律の達声に相応たるべき位に至る稽古・・・pp.258－260
2. 文字の声を心得て、声出し、文字頭、または韻の字の並びに、同声を置くベからず・・・・pp.260－261
3. 稽古の次第、・・pp.261－262　、
4. 初心の稽古・用心のこと・・pp．262

**読解１．横（おう）と竪（しゅう）**

1. 発音原理やアクセントの学習から呂律の奥義へ
2. 初心の修行）　一調・二機「気」・三声
3. 音楽的声）　　横（おう）と竪（しゅう）

呂律に対応　横は呂、竪は律

笛の調子を聴き取り、それで謡おうと構えた「気」は竪

それを声に出してうたったところが横

「横にうたって竪にうたい切れ」

最初の謡だし・・・竪のはず、謡の声の流れ・・・竪　→　横　→　竪に納まる

横・・・出る息のあつかい

竪・・・入る息の彩どり

この出る息と入る息の使い分けによって、あるいは声をあやつりあるいは曲を美しくする

生まれつきの声の性質・・・横である者・竪である者、横・竪とも備わったもの（**相音**:理想的な声）

横だけの者・・・上音をうたう時にすこし竪の声の気味に息をつめてうたう

竪だけの者・・・横のおもむきで息をゆるゆるとうたう

「遣る声」の位・・・上音の謡・・・うたい出しが横、うたいこんでいく最後に竪の性質

「持つ声」の位・・・下音の謡

生得の声の性質に応じて適切にうたいこなすのを、**声を善くつかう者**という・・・名手の位

自分の声の性質を考えてもみないでただ声を彩り「曲」を美しくしようとつとめても、とうてい正しい道筋にかなった謡ではありえまい。

　ディスカッション　１

　（鎌田）

　基本の技法

　　たてよこ二つのタイプ、両方持っている人もいる。

　デズニー映画「リメンバー・ミー」を観てきた。

　　歌を禁止されている家の歌の大好きなメキシコ少年の話

　絶叫は竪、バラードはささやくように横

　歌い出しは、竪の声（垂直：天から降って来るように）

　　　　　　　横の声（水平：水が流れるように、風が流れるように）

　（河村）

　下から突き上げるような声

能の謡は昔、弱吟だけだった。強吟はあとからできた。

世阿弥の理論では両方あるはず

（松久）

泣き歌、空海（「声字実相義」）

音の振動、自然な流れ

相音がピタッと調和して、までになる

制御できない生命経路を呼吸によって制御していく

竪だけでは美しくない

　実演（河村）

　　頼政の弱吟（女性的）・頼政の強吟（男性的）

（鎌田）

バラードのようなもの（恋愛・失恋、切なく、かすれるような）は横

「アナと雪の女王２」

　エルザ（姉：雪の女王）

アナ（妹：ひとちぼっちで暗闇にいる）の歌

その時の歌、ためいき・ささやきのような（自分にはもう先はない）→希望→立ち上がる）

（木村）先日の吉増剛造（詩人）の講演と自作映像の際のマリリアさんの詩の朗読（朗唱）の声

　　エミリーの詩を英語で朗読（背景に揺れる南アメリカのサボテンや赤土・石の映像など）

　　霊界に触れ弾くような高音（バイオリンの高音のような響き）と地響きのような低音（男性的な声）

（河村）井上陽水もそうした声を出す

（鎌田）赤ちゃんもワー（鳴き声）とふにゃふにゃ（笑い声）の違う竪を

　天然自然に横竪がある

（河村）かみなり

バリバリバリバリ　ドーーーン（垂直を感じる）

　水のせせらぎ・風の○○（横の流れ）

「かみなり」と「なるかみ」

　　雲の下・・・かみなり

　　もっと奥から・・・なるかみ

　実演

　「鴨」のかみなり・・・　ジグザクに動く　最後にその場で足を踏む

だんだん遠ざかっていくかみなりは？

（鎌田）

不動明王

　「不動」という能面

観世・・・「国栖」という曲に。ふつうは赤頭

「葵上」・・・御祈祷の時に、密教の修行で「真言」を唱える

般若の面・・・黒般若・白般若（葵上）・赤般若（道成寺）

**読解２　作曲のめやす　・・・重複を避け、音曲の心根を持つ**

1. 単語の最初の音や、句の最後の音に同じアクセントをならべないように心がける
2. 耳ざわりよくあしらう
3. 変化を与えて重複感を避ける

ディスカッション　２

声を出していくときの区切り、移り行き、頭出し・・・同じものが続かないように

メリハリ、新規さ、一本調子にならないように・・・面白さ・目新しさ

（河村）実演

「高砂」（兵庫県高砂市から大阪の住吉へ船を出す、住吉大社は和歌の神様　海の泡のリズム）

５・７・５

たかさごや｜このうらぶねに｜ほをあげて｜

8拍×２＝16拍をうめる

ガケノウエノポニョ　ではなく　セントチヒロノカミカクシ

上の句　ゆったり　大鼓、男性的

下の句　はやい　　小鼓　女性的

笛　　　心象風景

太鼓　　時刻を刻む

　　　　夜やってきて朝帰る

「竹生島」に弁財天が出て来る・・・弁財天も水のせせらぎ

**読解３　謡を練習する順序、**

1. 正しい発音を頭に入れる
2. いろいろな形態の「曲」を習いきわめる
3. 文字移りの際のアクセントあつかいに熟達する
4. 拍子あたりの緩急をのみこむ
5. 基本の心構えをのみこむ
6. 究極の「曲」あつかいは息を基礎とすると悟る

　ディスカッション　３

　　修練して身に着ける態度がクリアーに

沢山の曲を知る

ひとつひとつの微妙な彩を知りおぼえ、ゆるやか、はや、テンポの緩急

フィジカルからクオリティーまで歌の心と自分の心をつかんで

口を大きくあけて

おおのり、なかのり、はや

書くことのできる時代になった

秘伝書を書いた世阿弥・・16部集

マリア・カラス以前以後・・・オペラの表現方法が変わった

声の表情―身体の表情

声の感情と身体の動き

それまでの声楽は直立不動が良しとされた

フィジカルなものと感情をどう結びつけるか・・・内実

ピンクレディー・エグザエル・・・歌いながら舞う・・・歌舞

美空ひばり・・・身体・心・声（楽譜は読めなかった）

ヒップホップ・掛け合い・ラップ

歌垣・祭り

先住民族の文化

輪踊り・円形・サークル

即興性

男女のかけ合い

定型を知っていても自分の形式に崩しながら

**読解４　初心の稽古・用心のこと**

・一人研修の際も貴人や午前の前や晴れの席でのように

・姿勢もうたい出しの調子を定め、扇拍子を打つことにいたるまで実際の多人数の前で演ずるように

・うちわの練習という意識をもたない

・心の中で神仏に誓って、重大な演能のときと同じ行き方で

・どんな晴れの席に出ても、あわてたり、あがったりすることなく、自分の演じ得る限界の中で失敗するおそれはない

　ディスカッション　４

稽古のしかた

　仲間内―緊張感が足りない・・・本番で上手くいかない

　本番とリハーサル

心の中で神仏に祈って行う

稽古と本番

　一流選手の集中力

カール・ルイスの感得「50メートル過ぎたら笑って走れ」

　　　羽生も笑っている

　リラクゼーションとバイオメカニカルな根拠（後半の加速度に耐える頭部の形成姿勢）

金メダルは通常の練習の延長上・・・いつも本番のように

野口みずき・・・「走った距離は裏切らない」

先代の幽雪さん

世阿弥・・・本番と普通の稽古を同じに・・・名人たちにはムラがない

イチロー・マツイ・・・ホテルをきれいにして帰る

一回一回の稽古が祈り、儀式になるかどうか

ふだんの稽古、常に本番

修行者と同じメンタリティー

　神・祈りの方向　がしっと一回一回

千日回峰行者は刀を持って修行する

|  |
| --- |
| **世阿弥研究会　今後の予定**  次回は、2020年1月21日（火）18時～20時＠河村能舞台で行ないます。 2月は、2020年2月25日（火）18時～20時＠河村能舞台で行ないます。 3月は、2020年3月24日（火）18時～20時＠河村能舞台で行ないます。  **行事案内１** 大阪の梅田で、「**久高オデッセイ第三部・風章」の上映会とトーク**を行ないます。 ご覧になりたい方がいましたら、この機会にご覧ください。 2020年1月13日(月) 13:30〜16:00 申し込みは、 <https://www.kokuchpro.com/event/a1ec5f99f2f86d4448f620df9f5fb48f/>　からできます。  **行事案内２**  、「**京都伝統文化の森推進協議会**」の第27回公開セミナー　テーマ：「 山づくりとまちづくり 」  日　時：令和２年２月９日（日）午後１時～午後５時  場　所：京都大学稲森財団記念館３階大会議室（左京区吉田下阿達町４６）  **行事案内３**  2020年10月24日・25日に、久高島で、「**第1回ヤポネシア音楽祭**」を行ないます。  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　鎌田東二拝 |

記録・文責：木村はるみ